

日能研	5年		
	算数		
学習内容	6月の学習内容 33 線分図と式 消去算 34 1あたりの差と全体の差 差集め算・過不足算 35 割合とは 36 割合と線分図① 割合の三用法		
家庭学習ポイント	第33回は消去算です。「公倍数で個数を揃えて消す」という作業ですが、面倒でも図（記号のようなメモでも構いません）を書いて確かめて解くことが必要です。「りんご1この値段はみかん2つ分」といった問題では「すべてみかんに置き換える」などが必要ですね。第34回は差集め算、過不足算です。いずれも「1あたりの差」や「配る量と不足、あまり」を見やすく書き出して考えることが大切です。特殊算で大切なことは「問題に合った書き出しの方法、整理の方法を学んで実践すること」です。1つ1つ技術を身につけていきましょう。第35回から「割合」の学習に入ります。まずは割合の意味と三用法からです。「もとにする量」「くらべる量」「割合」の3つのいずれかを求める作業ですが、「割合＝～倍」という感覚をしっかりとっておくことが重要です。「1200円の30%は」という問題なら「1200円の0.3倍は」と置き換えることで、求めるべきことがわかってきます。5年生の最重要単元の1つです。しっかり身につけていきましょう		
課題の把握と解決策	チェック1	「消去算ではこのような書き出しで整理する」という「型」が身につきましたか？	チェック
	解決策	問題の種類に合った書き出しの形を身につけましょう	□
	チェック2	長椅子の過不足算で解き方があやふやになっていませんか？	チェック
	解決策	「座る椅子がない」＝「人が余っている」と考えましょう	□
	チェック3	小数と歩合、百分率の対応がしっかり身についていますか？	チェック
	解決策	百分率は全体が100（%）、歩合は全体が10（割）ですね	□
	チェック4	割合と具体的な数の違いが腑に落ちていますか？	チェック
	解決策	割合は「個」「人」などの単位がつかない数です	□
	チェック5	割合の問題文を読んで、それをかけ算の形になおすことができますか？	チェック
解決策	つねに「割合は～倍」という感覚で問題を式に直してみましょう	□	
日能研	5年		
	国語		
学習内容	6月の学習内容 33 理由② 34 対照的内容① 35 対照的内容② 36 似た内容		
家庭学習ポイント	第33回は「理由②」ということで、因果関係について学びます。記述問題であることの理由を説明する際には、指字数内でどの言葉をどう組み合わせるかを吟味することが大切です。第34回、35回のテーマは「対照的内容をとらえる」で、1つのことを説明するのに2つの対象的な事柄をあげることで、筆者が意見を明確に表現する方法とその読解について学びます。ポイントは、対象的な2つの事柄が出てきたら、その共通点と相違点に注目することです。その上で、筆者がどちらがよいと主張しているのかを考えてみましょう。第36回は「似た内容」で、取り上げられている事柄のうち、似た関係にある内容の共通点を考えます。その共通点が筆者の言いたいことに通じることを学習します。		
課題の把握と解決策	チェック1	因果関係を意識して素材文を読んでいますか？	チェック
	解決策	記述問題でもっともよく問われるのが「理由」です	□
	チェック2	文章の中で「対照的内容」を見つけ出すことができますか？	チェック
	解決策	論説文・説明文では非常によく用いられる手法なので、意識して読んでみましょう	□
	チェック3	「共通点と相違点」を意識して文章を読んでいますか？	チェック
	解決策	理科の生物分類など、実は国語以外の勉強でも「共通点と相違点」を意識することは効果的です	□
	チェック4	「似た内容」を意識して文章を読んでいますか？	チェック
	解決策	筆者は言いたいことを、表現を変えて何度も書くものです	□
	チェック5	言い換え問題を苦手にしていませんか？	チェック
解決策	「同じ内容を表す一文を書き抜く」は「似た内容」を探す作業ですね	□	

日能研	5年		
	理科		
学習内容	6月の学習内容 24 いろいろな水溶液 25 気体をつくって集める 26 物質のとけ方 27 物体の運動		
家庭学習ポイント	第24回は「水に何かをとかしてみると」で、いろいろな水溶液の性質について学びます。まずは水溶液の「定義」をしっかりと覚えておくことが重要です。水溶液の性質の分類のしかたとして「酸性・中性・アルカリ性」「溶けているものが固体・液体・気体」「においがある・ない」といったものがあります。ベン図や表に整理して覚えるといいですね。第25回では気体の発生方法と性質について学習します。酸素・二酸化炭素・水素を発生させるときに使用する薬品（液体・固体）は覚えておくことが必須です。気体を集めるときに使用する実験器具の名前（コック付きろうと管・三角フラスコ・集気びんなど）と使用法も入試頻出です。第26回は「もののとけ方」です。溶解度計算は小数第二位までの計算がどんどん出てくるので、計算力があやふやなお子さんは苦手意識を持ちがちです。計算力そのものだけでなく、計算に対するモチベーションも大切で「この一問を解き切るまでの集中力」を意識して取り組むことがポイントです。第27回は「物体の運動」です。ふりこに関しては長さ、振幅、おもりの重さと周期の関係をしっかりと整理して理解しておくことがポイントです。		
課題の把握と解決策	チェック1	水溶液名を聞いたら主な性質を答えられますか？	チェック
	解決策	いくつかの視点で分類し、ベン図や表にまとめておきましょう	□
	チェック2	酸素を発生させるときに使う「二酸化マンガン」の特徴を説明できますか？	チェック
	解決策	黒色の固体で、反応によってそれ自体は変化しない「しょくばい」です	□
	チェック3	「二酸化炭素の性質は」と聞かれたらいくつか答えられますか？	チェック
	解決策	呼吸や光合成との関係、温室効果ガスであることなど、マインドマップでまとめておきましょう	□
	チェック4	溶解度計算で「とにかく計算が合わない！」となっていないですか？	チェック
	解決策	計算力も原因の1つですが「一問を解き切るまでの集中」を意識してみましょう	□
	チェック5	ふりこの長さや周期の関係を正しく説明できますか？	チェック
解決策	「長さが2×2倍で周期が2倍、長さが3×3倍で周期が3倍…」運動の分野では「2乗」がKWですね	□	
日能研	5年		
	社会		
学習内容	6月の学習内容 24 日本の農業のすがた 25 日本の水産業のすがた 26 食料をめぐる問題点 27 日本の軽工業のすがた		
家庭学習ポイント	第24回からは産業別の地理のまとめです。第24回と26回は農業に関して学びます。日本の農業の問題点については、減り続ける農家の数、農地面積、下がり続ける食料自給率などがあり、しっかり押さえておく必要があります。食料自給率は入試問題でもよく扱われるテーマです。国内で消費する食料のうち、どのくらいの割合が国内で生産できるかという割合（%）ですね。その他の問題としては農家が減り続けている結果、一戸あたりの農地面積は大きくなっているということなどもあります。有機栽培や産地直送、スマート農業などの工夫がされていることも重要です。第25回は水産業です。漁業の種類別漁獲量のグラフは頻出事項ですね。グラフから沿岸漁業・沖合漁業・遠洋漁業を判別できるようにしておきましょう。1970年代に石油危機と排他的経済水域が設定され、遠洋漁業が衰えたことも知っておきたい重要事項です。第27回は軽工業について学習します。		
課題の把握と解決策	チェック1	日本の農業の問題点をすぐに答えられますか？	チェック
	解決策	農家の数、農地面積、食料自給率などについて説明できるとよいでしょう	□
	チェック2	漁業の種類別の漁獲量のグラフをみて沿岸漁業・沖合漁業・遠洋漁業の区別をつけられますか？	チェック
	解決策	70年代にピークを迎えたのが遠洋漁業、80年代にピークを迎えたのが沖合漁業です	□
	チェック3	かきや真珠などの養殖が盛んな地域をすぐに答えられますか？	チェック
	解決策	かきは北海道や広島湾、真珠は愛媛、長崎、三重県ですね	□
	チェック4	食料の輸入が増えた理由を正しく説明できますか？	チェック
	解決策	食の多様化と輸入のほうが安いということですね	□
	チェック5	全国の工場のうち、中小工場（従業員300名未満）は何%？	チェック
解決策	約99%です。1%の大工場が生産額全体の半分を占めている現実もあります	□	